

東アジア古代都市の空間構造とその特色

黄 晓芬

はじめに

都市という特定の空間は古来、人為的活動によって創り出されたものである。古代東アジアにおける都市国家の空間は、政治空間の位置、可視的な記念的建造物・儀礼式場（公共広場）などを周到に設計、建造されたほか、一定の歴史時勢における政治策略の中に、重要な役割を加担、演出させたのである。

1. 中国における文明都市の空間構造

古代都市の空間構造とその表象は、相対位置と距離によって「方向」が測定されるもので、その方向は世の中の秩序と構造を成立させる基本要素の1つである。この種の歴史舞台は、人為的に設計し創り出したもので、また権力者の意思を包含した政治内容が賦与され、各種のイデオロギーの産物としても看取できる(1)。

中国王権都市の誕生は、良渚古城<図1>を代表に紀元前3千年紀後半に遡る(2)。そして、二里头古城<図2>をはじめ、商周・春秋戦国期の王都建設の多くは、宮殿・宗廟・王墓を中心に城壁と城濠で囲まれた「尊北」・「方中」といった巨大な城郭都市として建造された。その後、漢魏帝都の建造に至って「建中立極」の空間構造が完成し、「地上におけるコスモロジーのミニチュア」が造り出されたのである。

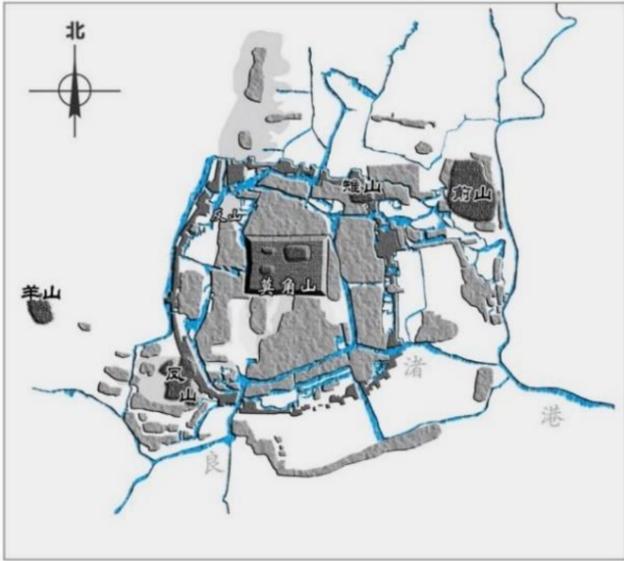


図1. 良渚文化後期の都市平面図(2)



図2. 二里头古城址の平面図(趙海濤製図)

2. 漢魏帝都の都市空間の特徴

秦漢時代における帝都と陵墓の建設は、いずれも北方位を重んじて政治・祭祀儀礼空間を中心に配置されたもので、「建中立極」という思想理念を顕在化させたのである。

漢帝国は創立初期、古代聖賢の王権神授・「天人合一」の思想に基づき、理念都市の漢長安城を建造した。現在、西安市郊外に遺る漢長安城遺跡は総面積約36km²に及び、城壁や城濠に囲まれた城郭、高大な門闕をもつ城門施設や各々の宮殿建築群は、いずれも真北方位で造営された<図3>。

帝都長安の空間構造は、渭水を中心に南岸の漢長安城(皇権政治の儀礼空間)が造られ、北岸は高祖長陵(陵墓・陵邑祭祀)を築いた。この生死=陰陽を象徴する二大聖域を中心にして南端の南山子午谷の天門(闕)と、北端の嵯峨郷天井岸村に残る祭祀建築群とつながり、真北方位で南北中軸線的に配置された<図4、表1>。漢の帝都長安は、周到な都市計画により、真北方位を定めた宏大な記念碑として創り出されたのである。これは天上の法則と地上の秩序を関連させ、神と帝王の権威を統合し漢帝国による支配の正統性と神聖性を具現化した理念都市の完成である(3)。

漢魏洛陽城になると、従来の多宮制から城北中央の太極殿を中心とした単一の宮城が成立した。北魏洛陽城は宮城・内城・外郭城との三重城郭からなり、宮殿建築群が南北軸線沿いに左右対称に配置され、街路によって碁盤の目のように区画された条坊制も確立された(4)。里坊内には邸宅、市場や寺院があり、城南に設置された四通市のまわりに周縁の人たちが居住・商売した四夷館・四夷里が設けられた。こうして総面積は約80km²に及ぶ北魏洛陽城は、史上初の宏大な「建中立極」の都市空間が完成した<図5>。

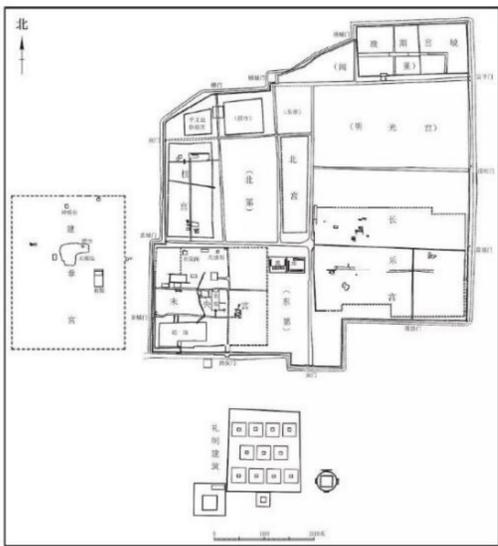


図3. 漢長安城遺跡の平面図(劉振東製図)

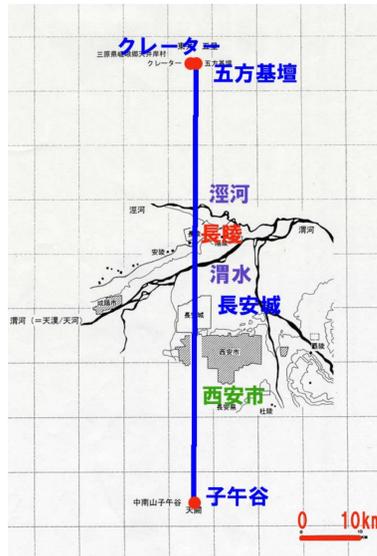


図4. 漢帝都長安の景観方位・全域図

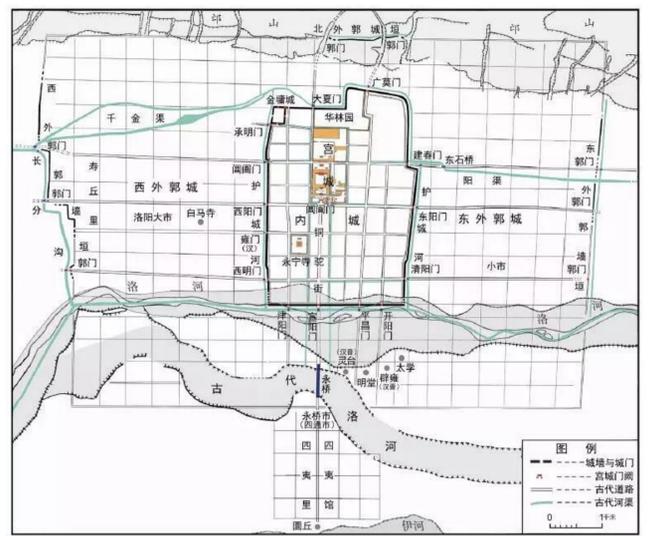


図5. 北魏洛陽城の調査平面図(銭国祥製図)

表1. 漢帝都長安建設における長大な南北中軸線配置と方位角

南山子午谷口	漢長安城安門	高祖長陵中点	五方基壇中基壇	巨大な円形竪穴
	56.2秒 東振れ	4分 西振れ	29分28.8秒 東振れ	19分13.8秒 西振れ

3. まとめ

古代中国における都市の空間構造は、国家祭祀・権力空間を南北軸線上に配置し「尊北」「方中」そして「法天象地」「建中立極」の都城思想を具現化し、かつ段階的に遷り変わって顕在化したのである。下記、三段階の変遷説を提唱したい。

第1段階: 国家誕生期における王都建設の空間構造は「尊北」・「方中」を特徴とし、二里头古城には『周礼』都城モデルとも観られる「九宮格」プランが現れた。

第2段階: 秦漢時代における帝都建設の空間構造は、天地祭祀・政治空間を根幹に据えた南北中軸線、主要な建造物の左右対称的配置を特徴とし、壮大な「建中立極」といった都城プランを創り出した。

第3段階: 北魏帝都洛陽の空間構造は、宮城正殿をつらぬく左右対称の南北中軸線とその軸線沿いに祭儀・宗教建築群や条坊制の整然かつ厳格な空間配置が特徴的で、皇権の至高無上が鮮明に映し出された。

北魏洛陽城では中国古代都城制の完成を迎え、歴代王朝の都城建設の基本モデルとなり、また各地の郡県都市、及び周縁地域における国家形成期の都建設にも多大な影響を与えた。

参考文献

- 1) Henri Lefebvre著、今井訳『空間と政治』晶文社、1975年
- 2) 宋姝、劉斌「良渚古城：中華5000年文明史の実証之城」『自然与文化遺産研究』2020年3期
許宏『最早的中国』科学出版社、2009年
- 3) 黄晓芬「漢長安城建設における南北の中軸ラインとその象徴性」『史学雑誌』115-11、2006
- 4) 杜金鵬・銭国祥主编《汉魏洛阳城遗址研究》科学出版社、2007年